

食品の期限表示に関する意見

(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会

1. 期限表示の意味、活用方法の普及啓発

- ①消費期限と賞味期限の定義について、十分な普及啓発が必要と考える。特に賞味期限は、おいしく食べられる期間の目安であるが、消費者にとっては安全性の点から、いつまでなら食べても問題ないのかは気になるところ。変色、腐敗臭の発生、容器の変形、など「食べられない状態」についての情報提供があるとわかりやすい。
- ②賞味期限を過ぎたからといって、すぐに安全性の懸念が生じるわけではない。このことが消費者に正しく認識され、期限表示の情報が活用できるように、製造現場、店頭、消費の段階における「賞味期限が過ぎた食品の取扱のあり方」についての議論をする場も必要と考える。

2. 期限設定方法に関する消費者への情報提供

- ①期限の設定にあたり、“どのような条件で、どのくらいの余裕をもって決められているのか”について、消費者への情報提供も必要と考える。この情報により、期限表示と保存状態は関連性があることや、購入後の保存方法などの取り扱いによる影響や注意すべきことなどを消費者が知ることができ、正しい理解と行動につながると思われる。
- ②消費者は、製造された日が起算日になると認識しているのが一般的。冷凍を経て、解凍された日が起算日と設定される場合などは、消費者の誤解や不安を招かないように、設定の根拠とそれが妥当である旨の説明が必要と思われる。

以上